

# Nutrition Support Times

## 新生NST chairman 熱く語る

**NSTを引き継ぐに当たって:**  
 今回、和田先生の辞任に伴いNST chairmanに就任した東別府です。当院のような大病院のNSTを率いるには若輩者ですが、努力だけは続けていくつもりです。ですのでよろしくお願ひします。



**当院のNSTの現状と問題点:**まず、急性期病院でありかつ救急が活発なため、対象患者数がアルブミン3.5未満を対象者とする5~6割の患者となること、医療従事者の数、人材は豊富ですがそれ以上に業務量が多いことがあげられます。この対象患者数の多さはすさまじいものがあり、現在NSTの認知度が低いためにコンサルトが少なく、そのためにラウンドしている患者さんは12名ほどですがコンサルトが増えると現在のNSTチームはパンクする恐れがあります。また各チームの体制が整っておらず、嚥下チーム担当を率いておられた高野先生の退職に伴い、嚥下チームに関しては担当医師がいない状況に陥っていました。これに関しては現在神経内科、歯科、耳鼻科各科の先生方をお願いして、体制作りを進めているところです。

**NSTが始まって以来の院内への影響:**  
 NST開始後経管栄養は上昇傾向にあり、またイントラリピッドなどの使用率は上がりました。中心静脈栄養購入費用は減少傾向にあります。できるだけ経管・経腸栄養を行うというNSTの方針が少し浸透し始めたかと思っています。一般的にNSTの導入によって経管・経口栄養が増え、中心静脈栄養が減少し、また低栄養になる確率が低くなることにより、感染症や褥瘡の発生率が減少し、それに伴って薬剤費・材料費が減少し病院経営に益すること大であるとされています。また栄養状態を改善することにより患者さんの重症化を減らし、在院日数も減少すると言われています。当NSTもこのような状態を目指し、頑張っていきたいと思っています。

**NSTの目標と方向性:**将来的な目標としては地域密着型のNST、勉強会やカンファレンスで他院のNSTメンバーも交えて話し合えるようなNSTを目指していきたいと思っています。またこの対象患者の数は恐らく当分の間は変わりませんのでマニュアル作り、教育を積極的に行い、各医師、各看護師が栄養に対する問題意識を持ち、基本的な対処法を知り、リンクドクターやリンクナース・またNSTスタッフに相談し、その上で困った症例は全てNSTにあがってくるような体制作りを目指したいと思っています。現在の目標としてはNST本体と嚥下、

褥瘡、口腔衛生などの各チームの連携を緊密にとり、必要な場合は少人数の参加でも合同カンファレンスがすぐに関係するような体制を作っていきたいと思っています。

また当院もNST専門療法士教育認定施設になりました。日本静脈経腸栄養学会認定の資格で、管理栄養士、薬剤師、看護師、臨床検査技師で、下記条件を満たすと取得可能です。

- ①5年以上医療・福祉施設に勤務
- ②学術集会、教育セミナー等の参加単位を30単位以上有すること
- ③認定教育施設における合計40時間の実地修練
- ④認定試験に合格

当NSTでは教育の一環として、NST専門療法士をどんどん当院から育ていけるよう努力していきたいと思っています。

問題点だらけですが、栄養状態が改善するに従って元気を取り戻していく患者さんを見るのが一番の楽しみとしてみんな頑張っています。NSTスタッフ一同みんなで頑張っていきますのでよろしくお願ひいたします。

NST chairman

麻酔科 東別府直紀



### 栄養療法の必要性

栄養不良の患者はアメリカの病院でも2割、日本の病院でも4割ぐらい存在しますが、当院ではアルブミン3.5以下の患者と定義すればなんと5-6割程度います。急性期病院ですので仕方ない、という考え方もありますがしかしながら栄養不良患者はそうでない患者と比べて予後が悪いことが知られています。そのような患者さんたちはできるだけ早く栄養不良としての治療を開始する必要があります。しかし実際は入院後延々と細胞外液のみを投与され、絶食になっている例もあります。患者さんの状態を見ながらできるだけ早く栄養療法を始められるよう一緒に考えていきましょう

NST

### NST予定表

8/23 5階会議室

NST勉強会

「経腸栄養剤について」

&

経腸栄養剤試飲会

16時開場予定

普段患者さんに勧めている、濃厚流動食(経腸栄養剤)の試飲会を同時開催いたします。職員の皆さんどなたでもお越しください。

### ニュースレター発行にあたって

当院のNSTの活動をこのニュースレターで皆さんにお知らせします。NSTが何をしているのか、何をやろうとしているのか、栄養療法についてなど広く知って理解していただくため、気軽に読めるレターを発行します。患者さんの栄養管理をとおしてチーム医療をおすすすめ、1日も早いご回復ができるように努力し、病院にも多方面で貢献できるように励む生の声をここで聞いてください。また、興味のある方はどうぞNSTにご参加ください。ともにがんばりましょう!